

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日. Values include 4070300621, 有限会社ほうらい, グループホームほうらい小芝, 福岡県北九州市戸畑区小芝1丁目6-10, 令和2年2月12日.

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先, URL: http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 4 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日, 評価結果確定日. Values include 株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター, 福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号, 令和2年3月16日, 令和2年4月30日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である『ゆっくり・のびのび・楽しく』を基本として、毎日笑顔でいられる場所づくりを大切にしています。利用者の状態に応じた個々の対応、日々の生活の中で、少しの変化を見逃さない様スタッフ一丸となり寄り添った介護を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ほうらい小芝」は、住宅街の中にある3階建ての建物の2～3階部分に位置し、開設して16年目を迎える歴史を持つ。施設的ではない、家庭的な雰囲気大切に、手厚い職員配置のもと、個別の暮らしの継続に寄り添えるよう、日々のサービス提供に努めている。安定している職員体制に加え、外国籍職員も配置され、似顔絵や調理等、個々の能力を発揮する場面がある。地域の伝統行事見学や景勝地へのドライブ、他施設との交流会や文化祭参加等、外出行事の企画も多く、理念である「ゆっくり・のびのび・楽しく」の実践に向けて職員が一丸となって取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 58-64 describe various service outcomes and staff actions.

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念・運営方針を何時でも見える場所に掲げている。 外部の方やご家族様にもわかる様エレベーター内に掲示している	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念及び運営方針を掲げ、目に付きやすい場所に掲げ、共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・南沢見地区年長者ふれあい会 ・戸畑祇園山笠・子供山笠 ・高尾中学校介護体験学習 ・地区の廃品回収 等々地域交流に参加している	地区社協主催の年長者ふれあい会への参加や廃品回収、中学生の介護体験の受け入れ等を通じて、地域の一員として活動している。民生委員の方より、地域情報を頂くことも多い。戸畑祇園山笠の打ち込みを受け、地域の伝統行事に触れる機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出時に入居者様との交流から認知症の理解を深めていけるように努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議で家族・地域包括・民生委員の方々と情報交換し、サービス向上に活かしている	家族や民生委員、地域包括支援センター担当者の出席を得て、運営推進会議を2ヶ月に1回、開催している。運営状況やヒヤリハット・事故報告等を行い、地域情報を共有しながら意見交換を行い、意見や提案をサービス向上に活かせるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議により、事業所の実情やケアサービスの取り組みを報告し担当者からアドバイスを受けている	運営推進会議には、地域包括支援センター担当者の出席を得ており、身体拘束の適正化に向けた報告も含めて事業所の実状を共有し、開かれた運営に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前不審者の侵入があり1F階段は施錠。(警察指示により防犯の為)	身体拘束等の適正化の為の指針を作成し、研修実施や委員会活動の中で事例検討を行う等、不適切なケアを防ぐための取り組みを行っている。家族や職員へのアンケートを実施し、運営推進会議の中で検討を行っている。2ヶ月ごとに実施される研修では、Y字ベルトや車椅子テーブル、施錠、行動抑制、向精神薬の使用等、細やかに項目を設定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングにて勉強会を設け身体拘束の事例をあげ日々のケアにおいて身体拘束になっていないかの確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングにて研修を設けている	成年後見制度や日常生活自立支援事業について、現在、制度を活用している事例はないが、年間研修計画の中に位置付け、職員の理解を深めるよう取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては統括マネージャーが入居者家族と面談し項目に沿って説明を行い、理解・納得された上でサインを頂いている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族面会時に要望や意見が無いか声掛けし口頭にてその都度聞くようにしている	運営推進会議の開催を広く案内し、時には4~5家族の参加を得ている。家族の意見や要望は介護計画の中に位置付けながら、日常生活に反映できるよう努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見、要望を聞き入れ、必要に応じ上司に報告し改善している	定例会開催時には、参加できない職員の意見を事前に聴取し、会議の中での反映に努めている。業務連絡及び業務改善に関する情報は周知徹底を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況を把握して上でシフト管理を行っている。 得意分野を生かし実践できるように行っている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	未経験者の採用あり、意欲等確認し、個々にあった働きが出来るよう配慮している	職員の採用にあたり、年齢や性別等による排除は行われていない。外国籍職員も採用されており、調理等にて特技を発揮されている。現在、職員体制は安定しており、似顔絵の得意な職員がプロ並みの腕前を披露したり、貼り絵等の壁面構成を担当する等、能力を発揮されている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングにて研修を設け勉強し、日々の業務での意識が出来るよう努めている	権利擁護や身体拘束に関する研修を実施する中で、職員への人権教育、啓発に努め、意識向上に向けて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修の資料配り、研修希望者は研修に参加出来るよう体制をとっている。 未経験者に対しては一から介護技術等習得出来る様実践している		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人が運営している介護付有料老人ホームとの情報交換を行っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の状況に応じ徐々に慣れて頂ける様スタッフが傾聴し情報収集した上で同じ対応ができるように支援している		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居間もない間は入居様の不安もある為ご家族様に面会を多くして頂き、入居様の状況や生活歴など多くの情報収集できるよう努めている。その上でご家族様の要望等の聞いている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期は家族の要望を把握した上で、入居者の状態状況に応じ支援している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で一緒に物事に取り組める様声掛けし入居者の一人一人の状態に応じ協力しあっている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と入居者が一緒に過ごせる時間を大切にさせて頂ける様、現状報告をし、外出や外泊・行事等声掛けし協力して頂いている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が以前の生活と変わりなく過ごして頂く為に馴染みの方との関係を大切に築ける場を支援している	家族等との連携を図りながら、行きつけの美容院の利用等を支援している。また、地域の伝統行事見学や馴染みの景勝地へのドライブ等を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入りコミュニケーションが取りやすい場を作っている。 入居者の状況に応じ席を替える等配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も面会の可能な方はご本人・ご家族様とのかかわり相談があれば対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや要望を聞き、スタッフ間で話し合い検討し入居者の希望に添える様支援している	入居の際に、家族よりアンケート様式にて情報を収集している。日常の中でも、言葉や暮らしぶりを細やかに記録として残し、職員間での共有に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時は今までの経過記録を把握し、ご家族様から伺った情報等は記録に記載している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の一日の状況・状態の変化等はスタッフ同士で把握し、記録に残し申し送りにて共有している		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングにて話し合い意見を出し合いより良い介護ができる様努めている	日々のケアプラン実施表や各種帳票の作成や毎月のモニタリングを実施し、実践状況と見直しの必要性の検討に努めている。	機能維持や活用の視点を具体的に盛り込みながら、関係者での共有と実践に結び付けていくことが期待されます。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記載・申し送りノートに記載し口頭にて申し送り徹底することで共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況をスタッフ間で共有し迅速に対応検討している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活歴を把握した上で、一人ひとりにあった楽しみをもって頂ける様支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師が個々に看護ノートに状態を記載し往診時に付添い結果を看護ノートに記録しスタッフ間で共有している。状況によっては御家族様にも連絡をいれている。	入居時に、かかりつけ医の希望について確認している。協力医療機関より、定期的な往診体制が確保され、看護職員の配置により、日々の健康管理や医療との連携体制の確保に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の情報は管理者又は主任に報告する事を徹底し看護師に報告、相談し受診や処置等行っている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入院に至るまでの状態情報提供し定期的に訪問し状態把握している。退院時にはカンファに参加している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に家族説明し、重度化した際は再度状態を報告しご家族様の意見を尊重した上で往診医・家族・施設と話し合いを設け方針を決めている	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時に指針をもとに事業所としての方針や医療との連携体制について説明を行い、意向を確認している。状況の変化に伴い、その都度の意向確認と関係者間での方針共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の消防訓練時にAEDの使用方法について確認している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回消防訓練の際にIFサービスと合同に実施し、火災発生時の対応、地域住民との連絡等確認している。	各種災害対応マニュアルを整備し、年2回、階下の他法人事業所との昼夜を想定した合同訓練を実施し、連携を確認している。運営推進会議等にて、災害時の地域との連携を呼びかけている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や状態を配慮し声掛け対応し、入浴やトイレ介助の際は自尊心を傷つけないよう配置しプライバシーの保護に努めている	家庭的な雰囲気づくりに努めながら、馴れ合いとならないよう職員指導に努めている。個人の理解と尊重に努め、誇りやプライバシーを損ねない対応に留意している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉がうまく出て来ない方や耳が遠い方に対しては表情を見極めジェスチャー等で自己決定できるよう工夫をして対応している おやつの際の飲み物は何が良いか尋ねている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の状態に合わせ声掛けを常に行い一人ひとりの希望に沿ってケアにあっている。入浴拒否が多い入居者に対しては往診医に協力して頂き入浴の必要性を説明して頂いている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問カットの際本人の要望を伝える等行っている。白髪染めがしたいと要望があった場合は家族の了解を得て髪を染めている。広告をみてこんな洋服が欲しいと言われる場合は本人様と一緒に買い物へ行くなど支援している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付け等声掛けをし出来る事は一緒に行っている。 おやつは手作りし喜んで頂ける様工夫をしている 食事の味見等も願っている	食材業者も活用しながら、バランスやカロリー量に配慮された献立のもと、事業所にて調理している。おやつ作りが得意な職員もおり、季節行事やイベント時には、嗜好や調理への参加を意識し、食のプロセスを楽しむ機会がある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や食事摂取量の確認、食事形態、塩分制限ある方や嚥下機能低下している方、体重測定を行い増減の確認、血液検査の結果等に応じ個々に合わせ支援をおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとり口腔ケアを行い磨き残しが無いか確認し場合によっては仕上げ磨きをしている。歯科医の指導により歯間ブラシの使用も行っている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はトイレで排泄を行って頂ける様声掛けし誘導している	個別の排泄状況の把握に努め、パターンに応じた誘導や排泄動作に応じた立ち上がり訓練等を実施するよう努めている。毎朝の乳製品の摂取等、自然排便に向けたアプローチにも努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10:00・15:00に体操を行っている。起床時、牛乳を提供し日曜日の朝食時にはヨーグルトを提供し腸内環境を整える支援している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決めているが入居者希望に応じ入浴できる様支援している。	日常的に入浴を準備し、希望があれば毎日の入浴も可能である。拒否される方には、声掛けやタイミングを工夫し、無理強いとならないよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の状態に応じ休息できる様支援している。布団やシーツ等いつも綺麗な状態で休める様支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては看護師が薬の重要性・副作用等看護ノートに記載し全員が理解するよう徹底している。症状変化があればその都度報告し主治医に報告指示を仰いでいる		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の出来る事や趣味等把握し声掛けを行いスタッフと共に行っている。天気の良い日は散歩に行くなど気分転換の支援も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	要望に応じ外出レクを行っている。地域の文化祭やドライブ、買い物等家族様にも協力して頂き支援している。天気の良い日はおやつを食べに近くのコンビニまで散歩に出かけたり行っている	ベランダを活用して花を育てたり、日光浴を行う等の支援が行われている。皿倉山の展望レストランで食事したり、馴染みの景勝地へのドライブ、他施設との交流会参加等、全体的な外出行事を企画している。個別外出の企画も期待される。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設で管理しているが、必要に応じて外出時の食事には希望するもの注文し必要なものは購入している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じ電話の取次ぎや対応を行っている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じ温度・湿度の管理を行っている。居間は全員がテレビがみえる様配慮している。壁面には入居者と共に季節の掲示物など作成し掲示している	3階建ての建物の、2～3階部分に事業所は在り、完成度の高い似顔絵をはじめ、壁面構成を工夫されている。生活感があり、食卓やソファ等の設置等、その時々に応じた居場所の確保にも配慮されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の気の合った同士を同じテーブルにすることで何時でもお話できる様にし全員が一体になれるよう配置も工夫している。独りになれるようソファも配置している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物の持ち込みをお願いしている。入居後も家族の写真など掲示して頂いたり本人様の好きなものを飾ったり等工夫をしている	各居室には、筆筒やソファ等が持ち込まれ、配置や動線の確保にも配慮しながら、安心して過ごせるよう配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内は動線が確保できる様に配置に気を配っている。 トイレの表示を大きくしている		